

2020年度後期 展覧会スケジュール

武蔵野美術大学 美術館・図書館は、9月からの2020年度後期の展覧会スケジュールを決定しました。新型コロナウイルス感染症予防対策の一環で臨時休館を実施したことに合わせ、展覧会会期の調整を進めてきました。全体スケジュールと、後期第一弾として9月から開催する「脇谷徹——素描ということ」と「イラストレーションがあれば、」の2つの展覧会の概要をご紹介します。

9/21(月・祝)–10/24(土)

①脇谷徹——素描ということ (展示室2・3、アトリウム1・2)

②イラストレーションがあれば、(展示室4・5)

11/16(月)–12/19(土)

③ドアは開いているか 山本直彰展 (展示室3・4)

日本画の新たな絵画表現の可能性を模索してきた作家の作品を展示します。

④十時啓悦——樹木と漆と暮らし (展示室2、アトリウム1)

木地作りから漆塗りまで一貫して手がけられた漆工作品の造形美に触れます。

⑤(仮称)所蔵品展 (展示室5、アトリウム2)

近年の新規収蔵品を中心に展示します。

11/30(月)–12/19(土)

⑥(仮称)ムサビのファカルティ展 (展示室1)

現在活躍中のムサビ出身の作家の作品を紹介します。

10/26(月)–12/19(土)

⑦紙・木・藁にみる祈りの造形 (民俗資料室ギャラリー)

自然素材で作られた祈りにまつわる資料を中心に先人の発想の工夫を辿ります。

※2020年度に実施予定だった「オムニスカルプチャーズ——彫刻となる場所」「所蔵品展——1960～1970年代のグラフィックデザイン」

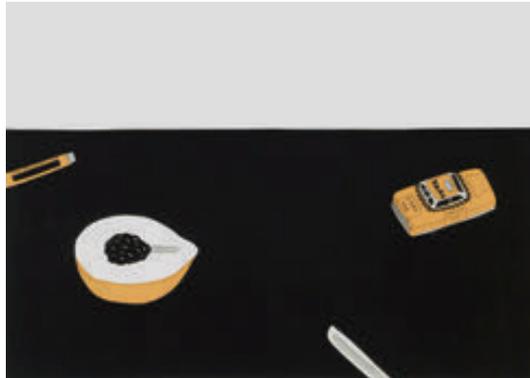
「片山利弘——領域を越える造形の世界」は2021年度に延期になります。また、「(仮称)助手展2020」は中止となりました。

※新型コロナウイルス感染症の今後の拡大状況に応じて展覧会スケジュールは変更となる場合があります。ご了承ください。

最新情報は美術館ウェブサイトでお知らせします。



① 脇谷徹《扉を開ける》2019年



② 安西水丸《パイパイヤ》1987年



③ 山本直彰《ここ HERE V》2019年



④ 十時啓悦《根来片口》1999年頃



⑦《宝船》(広島県)